

け入れらるべきものなりや否や。爭議戦術に出發せる平和の唱道は會社の最も迷惑とする所、この點夙に識者の御洞察ある事と信じます。

會社の態度は終始一貫、今日と雖も寸毫の變化ありません。正義に立脚し、大愛の精神に則つて、多數従業員の眞の幸福招徠を期するのであります。社會人、産業人として不適當なる習癖を艾除して、會社百年の大計を樹立し、よりに以て事業の發展と従業員の幸福の増進を圖らんとするのであります。誠意に基き、確信に立脚して、事に當る以上は不徹底なる事は斷じて致しません。

さり乍ら罷業繼續と共に、漸次加はるべき一般従業員の困苦と缺乏を思ふては、そらに同情の念を禁じ得ないのであります。然し、靜かに考ふるに、この事の解決は懸つて一般員工諸子の今後に於ける進退行動如何にありと信じます。諸子が今の時に於て反省し自重し、自己の行くべき道に向つて邁進することが一日早ければそれだけ早く、會社も一般爭議團員諸子も救はるのであります。何故かご申しますと、會社は今回の問題解決の眼目をば

(一) 本社永遠のため

(二) 産業人、社會人として不眞面目不適任と信ぜらるゝ一部少數の爭議團幹部及之と類を同じうする人々の面目や立場に頓着なく、本社従業員にして余儀なくある勢力に追隨して心ならずも之と行動を共にする多數の愛すべき一般員工達の眞の幸福とに置き更に

(三) 及ぼして地元及附近町村の繁榮、平和、並に多數得意、株主その他直接間接御縁故の方々に御安心を希望しては更に、産業立國の實を擧げんとするのであります。全く他意なきを以てであります。

會社は飽迄も愉らざる態度を持續し、眞の平和境確立のために、北總の天地を眞に明澄清朗ならしむる爲に、將又國家産業の發展の爲に、萬難を排して、邁進いたします。

この點につき、大方各位の充分なる御諒解と御後援を切願致す次第で御座います。

昭和貳年十月 日

野田醬油株式會社